

アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

1月に入り、5年生の市川市招待サッカー大会、Shapo 市川カップ 2014 第45回市川市少年サッカー親善大会（6年生の部）と、4種委員会のシンボルともいえる大きな大会を滞りなく開催することができました。これも偏に関係者の皆様のおかげと感謝いたします。

新年につき、私にとってありがたかった話をひとつ。

ある方からこんなお手紙を頂戴しました。

委員長通信 NO. 5 読みました。Q6=A6ですが「部活の名残」では、少しさみしいです。市川では36のクラブが存在し、新規参入は奨励していない根拠でもありますから、保護者や地域の自主的な努力が今日を支えていることも書いていただけたらと思いました。以下のような趣旨、部活からの発展を追加してはどうでしょうか。

「A6:市川市では平成17年まで、各小学校に学校の部活動としてサッカー一部があり、小学校対抗の大会を組織するとともに、これを母体として、4種委員会も組織していました。20年ぐらい前から学校の部活動としての存続が困難となるも、子どもたちがサッカーを楽しむ場を存続させたいと願う保護者や地域の指導者の方々が中心となり、部活サッカーを引き継ぎ、地域サッカークラブとして運営し発展させてきました。そうした努力の結果、今も各小学校にだいたい1つのサッカーチームがあるのです。平成17年に小学校対抗の大会が第38回を以て終了しましたが、4種委員会の組織は残り、サッカークラブ運営の変化に対応し、進化しつつ現在に至っています。」

これは、委員長通信No.5の「Q6：市内の各小学校に、小学生のサッカーチームが、だいたい1チームずつがあるのはなぜ？」に対する回答「A6」の内容に関するものです。どうぞ委員長通信No.5をご覧ください、比較してみてください。

一読してその通りだと思いました。委員長通信No.5の「A6」では全く足りていない。特に波下線の部分の中の「子どもたちがサッカーを楽しむ場を存続させたいと願う」という言葉に頭をガツンとやられた気がしました。

「各小学校にだいたい1チームのサッカーチーム（クラブ）があるのは、ただの『部活の名残』ではなく、その後を受け継いで、『子ども達がサッカーを楽しむ場を存続するための努力をし続けてくれている方達がいる』からである。」言葉もありませんでした。

4種委員会には20年以上に渡って、4種委員会に関わり、4種委員会が進化し続けている原動力となって下さっている方々が沢山います。このお手紙を下された方は、そのような方々の一人です。忌憚のないご意見を頂戴したことで、このような方々に支えられ、4種委員会の今日があるのだということを、改めて考え、深く頷くことができました。

本年度もさらに子ども達のため、皆様といっしょに、より良い4種委員会の運営を心掛けて臨もうと気持ちを新たにしました次第です。どうぞよろしくお願いたします。

「委員長通信」へのご意見ご質問は、FAXにて、四種委員会事務局までお願いたします。 FAX 047-324-3207